

教職の魅力化と教職大学院の在り方

加治佐 哲也

1. 教職の魅力化の方策

教職志望者の減少時代、教職の魅力を高めることは急務であり、魅力化の10の方策を示す。

- ① 教師の働き方改革の基本として、教師の行う業務について社会的合意が必要である。
- ② 給特法廃止と労働基準法適用による時間外勤務手当支給は教職特性や勤務実態に馴染まない。
- ③ 超勤4項目と教師の自発的活動を、教師の業務範囲や実態を踏まえ、再定義する必要がある。
- ④ 教職の魅力を高めるためには、目に見える教師の待遇改善が必須である。
- ⑤ 手当を拡充すべきである。校長の責任の重さや教頭の業務負荷に応え、管理職志望者を増やすためにも管理職手当の増額が必要である。
- ⑥ 人事評価を適切に行い、より業績・能力に応じた給与とすべきである。
- ⑦ 校長の労務管理能力やタイムマネジメント能力の向上が必須である。
- ⑧ 変形労働時間制を活用するなどして教師の勤務に関する制度を柔軟化すべきである。
- ⑨ 教師の学習観・授業観の転換によりICTを駆使し、子ども一人ひとりに最適な学びと協働的な学習をつくり出す、子どもの主体性を育む教育が求められている。
- ⑩ 教員需要が減っても教職の魅力向上は必須であり、教師の待遇改善の問題は不可避である。

2. 教職大学院の在り方

(1) 教職の魅力化のために教職大学院修了を標準とする

教職大学院は、理論と実践の往還・融合を具現化したカリキュラムにより教師に求められる資質能力の高度化に対応している。大学院修了が事実上、教職の標準資格となることで、教師が高度の専門職であることが広く認知され、教師の社会的地位が向上する。

(2) 教職大学院入学者を増やすために以下のインセンティブを付与する

- ① 給付型奨学金（返還免除奨学金）を教職大学院のストレート院生に設ける。
- ② 教育委員会との連携による修了者の確実な採用の仕組みを構築する。
- ③ 修了後のキャリアパスを明確化する。